令和４年度　第７４回　卒業式　校長式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

このハレの日を迎え、昭島市長 白井伸介様、昭島市教育委員会委員 氏井初枝様のご臨席を賜り、この上ない喜びでございます。巣立ちゆく卒業生の門出に華を添えていただき、厚くお礼申しあげます。

保護者の皆様には、この佳き日を迎えましたこと、どれほど喜ばしいことか、感慨もひとしおのことと、心よりお慶びを申し上げます。輝かしい門出を迎える卒業生に対し、一層のお力添えを願います。

卒業生の皆さん、私が皆さんと過ごした３年間は、突然の休校から始まりました。当たり前の日常が失われ、マスクをします、距離を空けます、歌えません。そうせざるを得なかったと、それが最善だったと、割り切れるものでしょうか。

過去は戻りませんが、過去を生かすことはできます。

皆さんは東日本大震災の年に生まれました。あの時、誰もが平和な未来を、穏やかな時代の到来を心の底から願いました。今の混沌とした世界を、誰が想像したでしょうか。しかし、このような時こそ、新しい変化を生む糸口ともなります。その分かれ道は、私たちの心と行動にあります。私たちがどう考え、どう行動するか、大きな分かれ目です。

予測できない未来に対応する最善の方法が一つあります。みなさん自身が、その手で、新たな価値を生み出すことです。受け身ではなく、能動的に未来を創造し、切り拓くのです。未来を創る、新たな価値を生み出すことができるのは、あなたがたです。それが「未来の守護者である」皆さんに託されています。未来を切り拓いてください。

さて、皆さんは、卒業を前に、総合の時間や思索コンテストで、「何のために働くのか」ということを深く追求してきました。

働くことと、生きることは、同じです。なりたい自分になるためです。私の「なりたい自分」は、「人のために生きる」ことだというお話をしましたね。人のために何かができたら、人のために生きることができたら、どんなに素晴らしいことか。

想像してみてください。みなさんが生まれた日のことを。おギャーと生まれた時のことです。あなたが生まれた時、あなたの周りにいた人たちがどんなに幸せに包まれたことか。想像してみてください。

小さなあなたが笑うたびに、誰もが笑顔になりました。小さなあなたが泣いていれば、どんな忙しくとも疲れていても、あなたのために精一杯尽くしてくれました。それがどれほどの喜びだったか分かりますか。

誰かのために何かをするということは、そういうことです。他のことでは味わえない特別な喜びで心がいっぱいに満たされるのです。自分の時間を純粋にあなたのために使っていたからこそ、湧いてくる喜びだったのです。

そして今日、みなさんがこうして、威風堂々と、小学校を卒業していく姿は、みなさんからの大きな幸せのお返しです。

そろそろ、さようならを言う時間です。別れは、儚く、悲しく、せつないものです。リンドバーグの夫人が、さようならという言葉に、これまで耳にした別れの言葉で、このように美しい言葉を私は知らない、と語ったそうです。

さようならという言葉は、元々、左様であるならば、という接続詞が語源だそうです。左様であるならば、ほんとうは別れたくないけれど、どうしてもそうしなければならないのであれば、別れを紛らわせたり、悲しんだりするのではなく、ありのままを受け止め、未来へつなげようとする前向きな意思が、「さようなら」という言葉の中に織り込まれています。まさに「仰げば尊し」の「今こそ別れめ いざさらば」です。

さぁ、旅立ちの時を迎えました。別れを惜しみつつ、この別れが必要なものであることを受け止め、恩師や友と過ごしたかけがえのない時間を胸に、振り向かず、立ち止まらず、前を向いて、歩き始めてください。

卒業生の皆さん 今日まで本当にありがとう そして さようなら。

令和５年３月２４日

昭島市立富士見丘小学校長　稲垣　達也